環境パートナーシップちば だより
―つながれ ひろがれ―
Vol.33

編　集　環境パートナーシップちば
代　表　加　藤　賢　三
事務局　千葉市中央区中央港1-11-1
(財）千葉県環境財団環境技術部
　　環境啓発ﾁｰﾑ
電　話　043－246-2180
ＦＡＸ　043－246-6969

環パちば主催学習会＆エコサロン

8月23日、水をテーマに環パちば主催学習会＆エコサロンが開かれました。我孫子市の学習施設アビスタにての学習会は宇井純氏の講演､化学物質の新しい制度PRTRの学習､エコサロンは手賀沼船上見学、礫間浄化施設見学、深山漁業長から手賀沼の今昔のお話を伺うという充実した１日でした。

「公害と水の浄化」宇井　純　氏の講演から

宇井先生は、元来応用化学が専門であったが、水俣病をきっかけに土木工学で排水処理を研究されながら、多くの公害や環境破壊の現場で救済活動や保全活動にかかわってこられた。

講演では水俣、渡良瀬、新潟、沖縄などで実際に先生が見聞きされた産・官・学の癒着や巨額の公共事業による自然破壊の実態を具体的に話された。公害解決には技術だけではなく政治を変えることが必要で、今までは十分な成果が挙げられなかったが、栃木県で福田知事、長野県で田中知事などダム建設見直しを公約にした知事が誕生するなど時代の流れは変わってきている。

千葉県では流域下水道の問題点を強く指摘された。宇井式の浄化方法では、はるかに安い費用で匂いもなく残渣の少ない下水処理ができるという。日本の下水処理はさまざまな装置をつけ、補助金をつけることでそれを標準化し、バカ高いものになったと嘆く。さらに流域下水道が環境行政の成果と見られるようになったのは、高額な予算であればあるほど評価が高くなるという政治の論理がはたらくことと、大きくすれば効率がよくなると信じてしまったことにある。しかし、距離が長くなると勾配をつけるために深く掘らなければならないし、下水管も太くしなければならない。事故の際の影響も大きいなどのスケールデメリットがある。千葉県とのかかわりでは、行徳野鳥観察舎ができたばかりのころ、観察舎前のどぶ川に水車をまわし、多少ともきれいになった水をよし原へ導入することを薦め、10年を経て見事に成功している。行政とのパートナーシップで水の浄化に取り組むなら、市あるいはもっと小さな地域でそこにあったそれぞれの浄化方法をともに議論して見つけてほしい。地域プラントだったり、合併浄化槽であったり、あるいは休耕田の利用であったりするはずで、行徳野鳥観察舎の事例を参考にしてほしいと結ばれた。

「化学物質の新制度について」

環境省環境保健部環境安全課・PRTR担当　　渡辺真功氏

ＰＲＴＲ法は、人の健康や生態系に有害な恐れのある化学物質について、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組みです。

規制ではありませんが、届出により事業者の自主的な管理が促進され、排出量等の減少が期待できます。また、行政による化学物資対策の優先度を決定したり、国民への情報提供と理解の促進、環境保全対策の効果や進捗状況の把握ができるようになります。

平成11年7月に成立、14年4月から事業者からの届出がスタート、今年3月には13年度の集計結果が文書やホームページで公表、環境省等による開示も始まりました。

まだ、スタートしたばかりですが、汚染マップの作成や汚染源の特定などに幅広く活用されています。

環境省でも環境リスク低減プランの作成に役立てるなどの直接の活用のほか、ＰＲＴＲデータを読み解くための市民ガイドブックをつくり、市民の方の利用により、さらに制度の充実を図って行く予定とのことです。
http://www.env.go.jp/chemi/prtr/guide/index.html

手賀沼船上見学

手賀沼に生息している動植物や湖岸の関連施設、浚渫船などの説明を受け、ヘドロの観察もしました。カワウや水鳥が水の中にもぐったり、水面を走る様子が涼しげで心なごむひと時でした。

手賀川浄化施設

手賀沼と利根川への放流水をきれいにするため、設けられた手賀川上流の浄化施設。礫間酸化接触法では最大級で３ｔ/秒の処理能力がある。

H15 第2回
エコサロン

手賀沼の水環境の昔と今

手賀沼漁協　深山正巳組合長に沼の変遷について伺った。

深山氏は、戦後食糧増産のため開始された手賀沼干拓事業で、当時組合長であった父上の片腕として官庁との折衝や漁協組合員の説得にあたってこられた。干拓は昭和 43 年に完成、約 500ha の水田が造成されたが、その後周りの宅地化などで水質が悪化、魚の斃死、激減が続いた。漁業の苦難のなかで、国や県とともに水質浄化にも取り組まれ、国土交通省の事業として北千葉導水事業、礫間浄化施設、自然工法よる護岸工事などが、千葉県の事業として、流域下水道、ヘドロ浚渫などが行われ、水質のみならず、魚や自然環境も改善の兆しが見えてきたとのことである。

昔の写真

昭和 28 年、アメリカからカラーフィルムを取り寄せ、撮影した。沼の水は透明で底に居るウナギを鎌で刺してとるウナギ鎌漁法、今は１羽もいないマガン猟、一面アサザの写真など、今の手賀沼からは想像もつかないものばかりであった。

漁業の変遷

かっては漁業の中心はウナギで手賀沼のウナギは質量ともに充実していたという。今はモツゴやフナ、テナガエビなど主に佃煮原料。ワカサギは一時激減していたが最近見かけるようになり、水質改善の成果と思われる。現在は漁業のみでは苦しく、フィッシングセンターで養殖や釣堀、川魚料理など多角的に経営している。

植物その他の変遷

30 種以上の水生植物が記録されていたが、種、量とも激減。現在最も多いのが抽水性のマコモ、ヨシ、ヒメガマで護岸に定着している。最近ガシャモクが水道橋付近で生息が確認され、話題になった。そのほかにはリンの吸収がよいとのことでホテイアオイを県の指導で植栽している。

水難事故

昭和 19 年 11 月 22 日、国民学校の女先生視察会一行が渡し舟で対岸の会場に移動中、突然の突風にあおられ転覆、18 名が亡くなられた。当時、手賀村は無医村で、医師が駆けつけたのは事故から 4 時間も経っていたことも被害を大きくした。深山氏は当日帰宅中に堤防に並ぶ遺体の検診現場をみて、非常にショックをうけたという。手賀沼にかかわるものとしてフィッシングセンターに手賀沼聖観世音菩薩像を建立し、供養を続けている。

戦後、干拓で漁場が減り、水質が悪化する中で、漁業権をめぐるさまざまなトラブルもあり、漁業の維持は、並大抵な苦労ではないと思われるが、生態系の重要性が認識され、水質浄化での漁業の役割は大きくなっている。深山氏のふるさとへの正義と情熱を伝えていきたいと思いました。（文責・広報部）

ＮＰＯタウンミーティング

マニュアルづくりは、急がずゆっくり

松戸市　高橋盛男

「パートナーシップマニュアル」って何だろうと思いつつ、参加した８月30日のタウンミーティング。骨子を見て、なかなかよい内容だと思った。　「相互の特性・違いへの理解」「特性を発揮できる手続きの実現」「事業ごとの関係性の構築」などを基本とし、パートナーシップの組み方も、かなり柔軟に考えられている。けれど、この「柔軟さ」というのが行政の不得手なところで、実際に運用するとなると、職員はさぞ頭を痛めることだろう。

たとえば「誰を相手として選ぶか」などはやはり問題で、手を組む相手の素性を見きわめるのさえ、そう簡単ではないと思う。それでも、職員があれこれ頭を痛めてくれればいいのだが、頭も痛めずにマニュアル頼みでことを進められては困る。

パートナーシップ事業を推進する意義は、市民と行政が互いの抱える限界を超えられる可能性がそこにあるということだと思う。その実現には、互いの顔が見えるような関係性の構築が何よりも大切だ。どんな手をさしのべれば、相手が握り返してくれるか。それは相手によっても、地域によっても、抱える課題によっても違う。だから、さまざまな分野、局面でＮＰＯと行政との多彩な接点があり、そこでの試行を通して手法やルールが開発され、それが尊重されるというのでなければ、パートナーシップはうまく機能しないのではないかと思う。

冒頭に述べたように、そのあたりの考え方は、この骨子にも反映されている。けれど、マニュアルというのは、得てして本意を逸脱して仕組みだけが一人歩きしがちだから、そこがどうも心配になる。

県は、ＮＰＯ活動推進指針に沿って 27 の行動計画を掲げ、平成 17 年度を目標年次としてこれを進めている。けれど、マニュアルは具体の仕組みづくりを急がなくていい。当面は、基本的な考え方を述べる程度にしておいてほしい。

県とＮＰＯのパートナーシップを考えるタウンミーティング

ＩＮ千葉に参加して

君津市　田丸正芳（県職員）

１　はじめに

９月２日に県庁で開催された表記の「タウンミーティング」に参加した雑感を市民として、そして県職員としての立場を重ねて綴らせていただきます。私は、今までに「小泉内閣のタウンミーティングＩＮ千葉」「菜の花県民会議君津市会場」公開講座「ＮＰＯと行政のパートナーシップを考える」などに、組織を通じてでなく、自分の判断で申し込んで参加してきました。今回の「タウンミーティング」も一部勤務時間中ではありますが、「職務に差し支えない」ということで参加しました。

「小泉内閣ＴＭ」「菜の花県民会議」は休日の開催で盛会でしたが、自分がまず感じたことは、「ここに来ることのできる人は、恵まれている人ではないか？」ということでした。どの種の会合にも共通する課題ですが、むしろ、来ることの

出来ない人々の声をどう吸い上げるかが大切な課題だと感じました。もう一つ関心を持ったのは、自分の目や耳で感じたことを「マスコミ」や「主

催者」がどのように報道、結果報告するかということでした。これについては、かなり失望しています。「マスコミ」は、大切な部分を割愛し、事実の一部を切り取って報道しますし、主催者の結果報告も、多くの人を集めて意見交換をした意味がない程度の報告で済ませてしまっています。「アリバイ作りのための会議」にしないためにも、会議の主催者は細心の注意を払う必要があると思います。

２　９月２日のタウンミーティングの感想

会場は大勢の人であふれ、相当数の県の職員も参加していました。メインテーマの「パートナーシップマニュアル（骨子）」が県の職員向けの手引書であることから、これだけ関心があるというのは、いいことだと素直に思いました。また、この「マニュアル」は公開され、ＮＰＯにとってもガイドラインとなるものなので、多くの県民、ＮＰＯの皆さんの参加も意義深いものがあったと思います。

知事の挨拶、「パートナーシップマニュアル（骨子）」の説明、パネルディスカッションと順調に進み、あらかじめ配布された「質問用紙」による「質疑応答・意見交換」が行われ、限られた時間を有効に活用するためには良いやり方だと感心しました。多くの人は、理路整然と意見を言えるような訓練はできていないし、ある会議で「産業廃棄物の処分場の許可」について、やるせない気持ちを切々と訴えた人の家に、その日のうちに「脅迫電話」がかかってきたケースもあったと聞いているので、今後、「菜の花県民会議」の知事インタビューについても参考にしたらどうかと思いました。

「パートナーシップマニュアル（骨子）」の個別の問題については、ここでは触れませんが、「タウンミーティング」や「パブリックコメント」で寄せられた意見を公表し、委員会等で十分検討していただきたいと思います。特に、公金の支出制限などは、政策法務部門とよく協議して、根本的な部分で誤りの無いように留意していただきたいと思います。

３　今後の課題

17時40分で知事が退席、休憩後再開されましたが、会場は「かなり空いた状態」になり、コーディネーターの松原さんから「知事が帰られて、県の職員の方もかなり帰られてしまいましたね。」というきつい一言。会場に残った少数の県職員としては、はずかしい思いでした。「勤務時間中」は出席できる職員が、最後の40分間に参加できないはずはなく、個々の職員の意識の持ち方が問われます。

千葉県行政とＮＰＯとがパートナーシップを築くための「バイブル」である「パートナーシップマニュアル（骨子）」が出来ていない状態で、ＮＰＯへの補助や委託が先行して行われていることにも疑問は感じていますが、モデル事業・試験事業ということで、一応の理解をしています。

１年半ほど前に、船橋・松戸・木更津でＮＰＯの皆さんと意見交換の機会がありましたが、一番感じたのがＮＰＯとＮＰＯの壁でした。同じ趣旨の活動を行うＮＰＯ同士で罵り合ったり、「どんな活動をしているか簡単にアピールしてください！」と世話人の方が呼びかけても、沈黙してしまったりで残念でした。「環境パートナーシップちば」が千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的とするネットワークとして設立されて7年目になり、活動内容が充実している中で、このような活動が多くの分野のＮＰＯに広がることを期待し、自分自身もとりあえず地元のＮＰＯ活動支援などで少しは役に立ちたいと考えています。

価値観の共有こそがパートナーシップの基本！

ちば･谷津田フォーラム代表/千葉県立中央博物館生態･環境研究部長　中村俊彦

先日、千葉県行政とＮＰＯとがパートナーシップを築いていくための「千葉県パートナーシップマニュアル（仮称）」の説明会が県庁で開かれた。これは堂本知事はじめ県職員やＮＰＯ関係者など約200名が参加した意見交換会であったが、それに参加した私は、そのマニュアルの難解さとともに、行政とＮＰＯとのパートナーシップの基本的考え方のバラバラな状態に驚かされた。特に、県のＮＰＯ活動推進委員が「パートナーシップといえども行政とＮＰＯとの価値観は違うもの」との発言には愕然とした。

これまで、何人かのＮＰＯ関係者から「行政は、ＮＰＯを安い下請け業者として使おうとしている」と言った発言も聞いたことがある。反対に「行政からの委託金を目当てにした業者ＮＰＯが出てきている」と話す人までいるのにも驚いた。

存在基盤が大きく異なる行政とＮＰＯであるが、価値観を共有することは可能である。金にならなくとも将来のために自然や文化を守ろう、またそのためにも子どもの環境や教育も充実させる。そんな価値観を共有し、互いの立場を補完し、力を出し合い協働していくことはできる。法のもとに仕事をする行政であるが、社会が大きく変化し、法そのものもどんどん変わる現在においては、ＮＰＯからの現場情報が行政の仕事自体を支えている状況もある。

このような状況をふまえると、私は、行政とNPOのパートナーシップの前提は「価値観の共有」であり，しっかりした価値観の共有なしには共通目標の

具体化は無理であり、予算も人もついてはこない。行政とＮＰＯとのパートナーシップは、小さくても良いから、まずはしっかりとした価値観の共有からスタートすべきである。みんながそれぞれの価値観を率直に出し合えば、自ずとパートナーシップは芽生え、また立場の違いがあっても、互いに相手を思いやる心と困難にも立ち向かう努力を続ければ、その芽はやがてしっかりと根付いていくはずである。

エコメッセちばの歩み

小川かほる
（エコメッセちば2003事務局長・幕張ベイタウンにエコパークをつくる会）

「エコメッセちば」とは？

エコメッセちばの目的は環境保全のためのパートナーシップを推進し、さらに多くの人が環境に関心をもち、学び、持続可能な社会にするために行動することを伝えることです。

今日、環境問題等、様々な地球的な課題が山積し、人類の将来が危ぶまれるほどです。これらの問題を解決するためには、あらゆる人々が日々のくらしを見直し、今の社会を変えなければなりません。社会の重要な構成員として、市民・企業・行政があります。市民・企業・行政は自ずと価値観と行動規範が異なっています。それぞれが、環境に配慮した行動を行なうよう変わるのは当然のこととして、多様な価値観を乗り越えて、持続可能な社会に変革するために協働することが必要です。

「エコメッセちば」はこのパートナーシップにより、環境に関心をもち・学び・持続可能な社会にするために行動することが必要であることを多くの人が伝えるための場「環境活動見本市」なのです。

エコメッセの誕生―「エコメッセちば」は人と人との出会いから生まれた―

「エコメッセちば」のきっかけは環境シンポジウム’95千葉会議です。この会議もパートナーシップを推進することを目的の一つとして開催されているもので、エコメッセと同様、市民・企業・行政のメンバーからなる実行委員会形式の事業です。事務局があらかじめお膳立てをしてしまうイベントとは異なり、ゼロから構築していく本来の実行委員会です。市民がリーダーシップを発揮して会議は成功に終わりました。その市民の活動を見守っていた企業人が、市民の活動のお手伝いができないだろうかという想いを持ったことがスタートです。

その想いに共感し、環境保全の理念を伝えたいという人が仕掛け人会議を立ち上げました。そして、多くの人を巻き込み、できるところから作り上げていったのが「エコメッセちば」です。

エコメッセの運営形態と予算の変遷

1,996年は実行委員長は幕張新都心まちづくり協議会会長で実行予算は200万円。
1997年から2001年までの５年間は実行委員長は千葉県環境財団理事長で、事務局は環境財団、実行予算は450万円。
2002年は実行委員長は環境パートナーシップちば代表､実行予算は268万円､事務局は環境財団。
2003年は実行委員長は環境パートナーシップちば代表、実行予算は110万円、事務局は実行委員の中から選出。

「エコメッセちば」はパートナーシップの実践の場

(1)　賛同行事持ちより型イベント

趣旨に賛同したグループが、楽しみながら、環境について考え、環境のために行動するきっかけになれるようなイベントを持ち寄っています。例えば、エコメッセちば2001は10のイベントの集合体です。市民団体や企業・企業団体が単独で開催するもの、パートナーシップにより協働で開催するものがあります。ちなみにエコメッセちば2001賛同行事には、エコバザール・エコ展示やエコステージ、環境シンポジウム2001ちば会議、企業環境セミナー、こども環境会議、エコレストラン、環境ウルトラクイズちば２００１などがありました。

(2)　実行委員会が市民・市民団体・企業・行政の混成

エコメッセのそれぞれの事業にかかわる人を実行委員としています。エコバザール・エコ展示は実行委員会が呼びかけ、市民や企業、さらに行政

のそれぞれの団体が環境に関して行なっている活動を紹介するもので、例えば、2001年は市民団体が42、企業が10、行政が4、学校・大学が3、実行委員会が14、全部で73の出展となりました。それぞれの参加者からも実行委員に加わっていただきました。

これまでのエコメッセについて

（１）市民活動団体、企業、行政のそれぞれが、個々に、あるいはパートナーシップにより行っている環境保全活動を広く紹介してきました。
（２）環境問題を解決するために行動できる市民の育成を図る環境教育を推進する事業。特に、子どもから大人まで楽しみながら参加できました。
（３）環境に配慮した商品の展示販売を行ってきました。
（４）市民・企業・行政といったあらゆる主体との交流をはかってきました。
（５）パートナーシップの拡大を目指し、エコメッセちばの取り組みを全国発信。この取り組みを通じて、単なるイベントの開催ではなく、具体的な環境保全活動のネットワークを促進し、持続可能な社会へ変わっていくための交流の場づくりをめざしてきました。

エコメッセちばの今後の課題

多くの方、特に家族でどちらかというとあまり環境に関心のない方にも会場に来ていただき、楽しく環境について考えてもらうきっかけ､即ち｢お祭」にする必要があります。それと同時に、多くの人が会場に足を運びたくなるような体験型活動が必要と思われます。
そして「持続可能な資源循環型社会づくり」に向かって市民の一人として行動しよう」という意識をもち、環境のために行動できる人を多くするという目標を共有し、そのためにできることを市民・企業・行政がそれぞれに、かつ協働して運動することが重要です。しかも仕掛け人も楽しめることが必要です。

終わりに、今年のエコメッセちば2003は11月９日(日)に海浜幕張駅前で10時から開催します。是非、家族連れでお越し下さい。

レスター・ブラウン氏特別講演
「地球と人類を救う　プランB」へのお誘い

千葉大学　環境NPOサークル　Sun&Co.
http://chiba.cool.ne.jp/sunandco/

日時：11月14日(金) 13時～17時
場所：千葉大学　西千葉キャンパス　けやき会館大ホール
（地図:http://www.chiba-u.jp/general/about/map/nishichiba.html)
交通：JR総武線西千葉駅下車または京成千葉線みどり台駅下車
参加費：　無料　　定員：350名
・　WEBからのお申込みは↓コチラから。
　http://chiba.cool.ne.jp/sunandco/lester11142003/index.html
・　メール、FAXでのお申込みは「名前、所属、連絡先」を明記の上、
　E-Mail:sunandco@egroups.co.jp　または　Fax:043-290-2580へお申込み下さい。

千葉大学へ、「ワールドウォッチジャパン」やNHK「未来への航海」の先生役でおなじみのレスター・ブラウン氏が来ることになりました。環境ジャーナリストで翻訳家の枝廣淳子さんがレスターの講演などの企画募集しているところにサークルの顧問の先生が名乗り出て、見事ゲットしたものです。

ブラウン氏は1974年、ワールドウォッチ研究所設立、1984年より毎年「地球白書」を刊行し、地球規模での環境破壊を実証しました。2001年にはアースポリシー研究所設立、エコ・エコノミー～地球環境の原則を尊重する経済～の再構築を主張し、環境、食糧、貧困など地球規模の問題の世界的なオピニオンリーダーとして活躍しています。今回新著日本語版「エコ・エコノミープランB（仮)」の刊行にあわせて、11月中旬に来日し、各地で講演を予定しています。
みなさまお誘いあわせのうえ、ぜひお越し下さい。

建設フェアに参加して

広田　由紀江

８月 24 日､国土交通省と千葉県が共催する建設フェアが千葉ポートパークにて行われ、環境パートナーシップちばも参加しました。

昨年は、道の駅が中心の「ロードフェア」でしたが､今年はさらに建設関連の企業も多く参加する｢建設フェア」となり、多くの人で賑わっていました。

当日は、強い日差しにもめげずに多くの人が集まり、私たちも休む間が無いほど。加藤代表をはじめとするスタッフ総勢７人は、リサイクル工作として「ガラスアート」「竹細工」「ホースでカニさん」「ダンボール工作」を手がけました。中でもガラスアートや竹細工は、思いがけない立派な作品の仕上がりに、参加者の喜びの声が響いていました。

総務部より
運営委員会だより

8 月運営委員会（８月 23 日開催）

１．今後の参加行事
（１）環境シンポジューム 2003 千葉会議
（10 月４日、５日）
（２）エコメッセちば 2003（11 月９日）
（３）千葉大学の高齢化社会・環境情報センター
運営委員会
２．学習会とエコサロン（8 月 23 日午後）の参加申込み状況報告
３．事業部の事業予定
（１）エコサロン（10 月 24 日）
（２）エコツアーの検討
４．「だより」32 号の発送状況と 33 号企画（案）の検討

千葉大学「高齢者社会・環境情報センター会議」
セミナーのお誘い
日時：10 月 22 日（水）14 時 30 分～16 時
場所：千葉大学　高齢化社会・環境情報センター
講師：加藤賢三（環境パートナーシップちば代表）
演題：ホタルから見えてくる高齢化社会と環境
問合せ、申込み：加藤　TEL&FAX　047-450-9077
E-mail：ka_kato@hkg.odn.ne.jp

9 月運営委員会（9 月 26 日開催）

１．今後の参加行事
（１）　環境シンポジウム 2003 千葉会議での環パちばの積極的参加
（２）　エコメッセちば 2003 に、環パちばは出店
（３）千葉大学の高齢化社会・環境情報センターで加藤代表が講演（10 月 22 日）
２．事業部事業
（１）8 月の学習会とエコサロンの実施状況
（２）次回エコサロンは佐野郷美氏が講師。
３．「だより」33 号は 9 月 29 日に発送予定。印刷、発送作業手伝者を募集中。
４．県ＮＰＯ活動推進課より「県との協働事業」についてヒアリングがあり、環パちばとして、より良い県との協働について今後とも検討予定。
５．環パちばのメンバー（団体）を環境省に情報提供する件。

お知らせコーナ

★エコサロンー環境パートナーシップちば主催事業
日時：10月24日（金）18時30分～20時30分
場所：船橋女性センター研修室
講師：佐野郷美氏（市川緑の市民フォーラム事務局長）
演題：「身近な」という視点から「流域」という視点へ
市川緑の市民フォーラムは、市川市を中心に水辺と水辺の生き物たちの保護に取り組んできて、「流域」という視点がとても大切であると思うようになった。「流域」という視点から利根川治水計画と江戸川や三番瀬の関係について皆さんと共に考えたい。
申し込み・問い合せ：事業部　中岡
TEL＆FAX：047-385-8950
E-mail：naka.hta@trust.ocn.ne.jp

☆「江戸川、利根川シンポジウム2003」
日時：11月29日（土）10時～16時30分
会場：和洋女子大学　（市川市）
基調講演：高橋　裕氏
参加費：1000円
問い合わせ：横山（Tel＆FAX 047-353-8134）

★リサイクル「かもめ」15周年記念
フォーラム＆コンサート
とき　10月19日（日）午後1時30分～
ところ　御宿町公民館大ホール　入場無料
内容　基調報告
「自然と人間の共生をめざす時代がやって来た」
講師　小西　由希子氏（環境カウンセラー）
アトラクション　ジャズコンサート
「大神安紀子＆ＯＳＢ」
問い合わせ：永島（TEL＆FAX：0470-68-3529）

☆子どもと文化･交流フェスタ
～世代を越えて　みんなでつくる　夢のまち～
第19回　子育て文化協同全国交流集会・千葉大会
日時：11月29日（土）30日（日）
場所：千葉大学西千葉キャンパス
申し込み、問い合わせ　TEL：043－290-8901
（ちばコープヒューマンネットワーク事業支援本部）

★千葉県環境研究センター公開講座
開催日：10月24日（金）13:00～16:00
会　場：視察船「わかしお」
千葉港湾事務所(千葉市中央区中央港1-6-1)
□会場は港湾事務所HPをご覧下さい。
http://www.pref.chiba.jp/doboku/21chiba/
（最寄り駅：JR、モノレール千葉みなと）
内　容：「物質循環の実現に向けて」
～船上から知る東京湾～
私たちは、日常の生活を通して、東京湾水域の自然環境に様々な影響を与えています。船上から、日頃の生活のあり様や三番瀬問題などに思いをめぐらしてみませんか。
募集人数：100名（申込先着順、参加費無料）
申込・問い合わせ先（保険・定員の関係がありますので、「名前・住所・電話番号・年齢・性別」を明記の上、必ず電話、FAX、e-mailなどでお申し込み下さい。）
千葉県環境研究センター（市原市岩崎西1-8-8）
ホームページ：http://www.wit.pref.chiba.jp/
電話 0436-24-5309　FAX 0436-23-3598
E-mail：kankyoken@ma.pref.chiba.jp
[公開講座の今後の予定]
・11月15日(土)13:00～16:00
会場：千葉県環境研究センター
内容：ゼロエミッション・温暖化防止等循環型社会実現に向けた地域の取り組み状況を知る

☆三番瀬アートフェス2003
10月22日-11月2日
CMづくり・パフォーマンスなど募集中
コミュニティーアートふなばし
http://homepage1.nifty.com/FUNABASHI-DW/

★広報部より
1．皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。
2．ホームページに団体のリンクや連絡先としてメールアドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。
3．広報部連絡先　FAX：047-450-8468（佐藤）
E-mail：motosato@pop07.odn.ne.jp
HP：www.geocities.co.jp/NatureLand/4632/

古紙100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。
申込先：千葉県環境財団　環境技術部
環境啓発ﾁｰﾑ気付
TEL:043-246-2180　FAX:043-246-6969
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座　00160-9-401872
http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/

千葉県環境財団環境技術部環境啓発ﾁｰﾑ気付

＜環境パートナーシップちば＞
入会申込書

会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて入会します

氏 名		入会年月日	
住 所	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
年会費	個人1,000円　団体2,000円　賛助会員5,000円		

☆ 「江戸川、利根川シンポジウム2003」
日時：11月29日（土）10時～16時30分
会場：和洋女子大学 （市川市）
基調講演：高橋 裕氏
参加費：1000円
問い合わせ：横山（Tel＆FAX 047-353-8134）

□□□□□タイムテーブル

13:00 開会のご挨拶

13:05-13:30 千葉大学の環境への取組みの紹介
レスター・ブラウン氏のご紹介ほか

13:30-15:00 レスター・ブラウン氏ご講演

15:00 閉会のご挨拶

15:30 千葉大附属中学生向けに講演
□最新情報は↓こちらでご確認下さい。
http://chiba.cool.ne.jp/sunandco/lester11142003/index.html

□□□□□レスター・ブラウン氏PROFILE

アースポリシー研究所所長、ワールドウォッチ研究所理事。
1934年、アメリカのニュージャージー州に生まれる。
ラトガーズ大学、ハーバード大学で農学・行政学を修める。
1959年農務省に入省し、国際農業開発局長を務める。
1974年、地球環境問題に取り組むワールドウォッチ研究所を設立。
1984年に年次刊行物『地球白書』を創刊する。
1994年に旭硝子財団よりブループラネット賞を受賞。
2001年5月、アースポリシー研究所を創設して所長となる。
同年11月『エコ・エコノミー』を刊行。

□ワールドウォッチ・ジャパンWEBSITE等より引用
http://www.worldwatch-japan.org/ecoeconomy.htm

最近ではNHK「未来への航海」にアジアの子供たちの先生役として出演しました

NHK「未来への航海」
http://www.nhk.or.jp/voyage/

□□□□□参加申込方法
定員の関係上、お早めにお申込み下さい。

・WEBからのお申込みは↓コチラから。
http://chiba.cool.ne.jp/sunandco/lester11142003/index.html

・メール、FAXでのお申込みは

お名前:
ご所属:
E-Mail等ご連絡先:

を明記の上、
E-Mail:sunandco@egroups.co.jp または Fax:043-290-2580へお申込み下さい。

レスター・ブラウン氏特別講演
「地球と人類を救う プランB」

http://chiba.cool.ne.jp/sunandco/lester11142003/index.html
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

主催：千葉大学 環境NPOサークル Sun＆Co. http://chiba.cool.ne.jp/sunandco/
日時：2003年 11月14日(金) 13時～17時
場所：千葉大学 西千葉キャンパス けやき会館大ホール
(地図:http://www.chiba-u.jp/general/about/map/nishichiba.html)
交通：JR総武線西千葉駅下車または京成千葉線みどり台駅下車
□お車でのご来場はご遠慮下さい。
参加費： 無料 定員：３５０名

環境、食糧、貧困など地球規模の問題の世界的なオピニオンリーダーである、アースポリシー研究所所長レスター・ブラウン氏が新著の日本語版「エコ・エコノミープランＢ（仮）」の刊行にあわせて、11月中旬に来日し、11月14日(金)には千葉大学で講演会を行います。
みなさまお誘いあわせのうえ、ぜひお越し下さい。

この本でレスター・ブラウン氏は、「これまでどおりの形（政策）＝プランＡ」ではなく、「新しい形（政策）＝プランＢ」で、環境問題、貧困について、戦時中と同じようなスピードで取り組まないとならないと訴えています。

□□□□□タイムテーブル

13:00 開会のご挨拶

13:05-13:30 千葉大学の環境への取組みの紹介
レスター・ブラウン氏のご紹介ほか

13:30-15:00 レスター・ブラウン氏ご講演

15:00 閉会のご挨拶

15:30 千葉大附属中学生向けに講演

□最新情報は↓こちらでご確認下さい。
http://chiba.cool.ne.jp/sunandco/lester11142003/index.html

□□□□□レスター・ブラウン氏 PROFILE

アースポリシー研究所所長、ワールドウォッチ研究所理事。
1934年、アメリカのニュージャージー州に生まれる。ラトガーズ大学、ハーバード大学で農学・行政学を修める。
1959年農務省に入省し、国際農業開発局長を務める。
1974年、地球環境問題に取り組むワールドウォッチ研究所を設立。
1984年に年次刊行物『地球白書』を創刊する。
1994年に旭硝子財団よりブループラネット賞を受賞。
2001年５月、アースポリシー研究所を創設して所長となる。
同年11月『エコ・エコノミー』を刊行。

□ワールドウォッチ・ジャパンWEBSITE等より引用
http://www.worldwatch-japan.org/ecoeconomy.htm

最近では NHK「未来への航海」にアジアの子供たちの先生役として出演しました

NHK「未来への航海」
http://www.nhk.or.jp/voyage/

□□□□□参加申込方法
　定員の関係上、お早めにお申込み下さい。

・WEBからのお申込みは↓コチラから。
　http://chiba.cool.ne.jp/sunandco/lester11142003/index.html

・メール、FAXでのお申込みは

お名前:
ご所属:
E-Mail等ご連絡先:

を明記の上、
E-Mail:sunandco@egroups.co.jp　ま　た　は
Fax:043-290-2580へお申込み下さい。